

祝 辞

国立情報学研究所 学術基盤推進部・次長
細川 聖二

このたびは、第 85 回私立大学図書館協会 総会・研究大会のご開催、まことにおめでとうございます。開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げますとともに、弊所の事業について簡単にご紹介させていただければと思います。

私立大学図書館協会の加盟館のみなさまにおかれては、内外の情勢が厳しい中、教育や研究の継続、またそれらを支援する図書館の使命を果たすために大変なご苦勞をされていることと存じます。このような状況のなかで、総会・研究大会開催を企画された方々のご尽力、私立大学図書館のみなさま方の結束力に深い敬意を表します。

さて、弊所は、国立情報学研究所、National Institute of Informatics、通称「NII」と呼ばれ、日本で唯一の情報学に関する総合的な研究所です。それと同時に、大学共同利用機関として、大学のみなさまと連携しながら、学術情報基盤を構築・運営する組織でもあります。

弊所は、超高速なネットワークである SINET やクラウド、認証といった「ネットワーク基盤」における「学術情報ネットワーク事業」と、図書館のみなさまになじみの深い図書や雑誌、学術論文や研究データ等を、管理・公開・検索する機能を持った「研究データ基盤」における「学術コンテンツ事業」の、二つの事業を中心に活動を展開しております。

近年は特に、各大学や研究機関における教育や研究のデジタル・トランスフォーメーションを進め、データ駆動型研究による成果創出ならびにオープンサイエンスの推進に貢献することを目指しております。

2022 年度からは、弊所の事業の中核である「ネットワーク基盤」と「研究データ基盤」をともに高度化し、融合した「学術研究プラットフォーム」の運用を開始しました。(図 1 参照)



図 1 NII が提供する学術研究プラットフォームの概要

図 1 をご覧ください。「学術研究プラットフォーム」をご紹介します。まず、一番上の層は研究のライフサイクルを示しています。学術研究プラットフォームはオープンサイエンスに向けてこの研究サイクルを活性化すべく構築されています。

一番下に位置しているのが、ネットワーク基盤 SINET です。SINET は 2022 年 4 月 1 日に新バージョン「SINET6」の運用を開始しました。全国を 400Gbps で網羅する通信網（沖縄回線のみ 100Gbps）は、世界的にも類をみない高速高性能な通信品質を有しています。

2024 年 4 月時点で、1,020 の機関に SINET を利用いただいています。

ネットワーク基盤の上にあるのが研究データ基盤「NII Research Data Cloud」(NII RDC)です。このNII RDCを構成する基本的な基盤として、管理基盤「GakuNin RDM」、公開基盤「JAIR0 Cloud (WEK03)」、検索基盤「CiNii Research」の三つの基盤があります。これらは、2020年度末から段階的に運用を開始しております。弊所では、第4期中期目標・中期計画の期間(2022年度～2027年度)において、この研究データ基盤を高度化し、基礎的な機能の提供からデータ駆動型研究の実践に不可欠な基盤へと各機能を拡充していく予定です。統合イノベーション戦略会議より「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」が2月に示され、また令和5年度補正予算により文部科学省において「オープンアクセス加速化事業」が始まりました。弊所もオープンアクセスを促進するべく、学術機関リポジトリの運用支援、NII RDCの基盤間連携、オープンアクセス評価のためのモニタリング、そしてこれらを下支えする認証機能にフォーカスして、高度化を進めていき、即時オープンアクセスに伴う様々な課題を解消すべく邁進する所存です。

特に「認証」については、国内および国際的な連携のために、データ流通基盤の本格的な整備が従前より進められ、その実現のために認証の信頼性(トラスト)を高度化することが共通の理解になっています。しかし、現状では、人材等の不足により効果的な施策が取れていません。実際、不正アクセスの原因としてアカウント詐取が全体の9割を占めると言われる中で、アカウントのセキュリティ強化が日本のアカデミアでは進んでいません。現実問題として、強固なアカウント管理基盤の構築が前提となる「学認」への参加が日本では全研究機関の3割程度にとどまっていることは、危機的な状況の表れと私どもは受けとめています。NIIは、大学を中心とした研究機関に対して、認証フェデレーション技術の提供や、認証の点からのセキュリティ強化に関して様々な技術の提供と調整機能を果たしてきましたが、このような情勢を受け、この4月に所内にトラスト・デジタルID基盤研究開発センターを設置しました。このセンターを中心に、高機能データ流通基盤を早期に実現するための高度認証基盤の確立と、成果の各大学への展開を図っていきたくと考えております。各大学におかれましても、この機に「認証」について改めてご検討いただければと存じます。

最後に、大学図書館のみなさまにご利用いただいている、検索サービスCiNiiの今後について触れさせていただきます。現在は、CiNiiは論文や研究データを検索するCiNii Research、博士論文を検索するCiNii Dissertations、大学図書館の所蔵資料を検索するCiNii Booksの三つのサービスに分かれています。「統合的発見環境の実現」というのは、我々のミッションのひとつですが、今年度中にCiNii ResearchとCiNii Dissertationsを統合し、来年度以降で更にCiNii Booksも統合し、文字通りの「統合的発見環境」を構築する予定です。統合後も当面の間は、既存のサービスを提供し続け、ソフトランディングできるように努めますので、ご理解いただければと存じます。

みなさまご存じのとおり、国公私立大学図書館協力委員会と弊所との間で、2010年に連携・協力の推進に関する協定書を締結し、大学図書館のみなさまとの連携活動を強化してまいりました。特に、「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）」と「オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）」の二つの組織は、今日の大学図書館のサービスを維持・発展させるために欠くことのできない存在です。どちらも弊所に事務局が置かれており、事務局員は参加機関からの出向者によって成り立っております。しかしながら近年、大学および図書館を巡る厳しい情勢から、事務局員の出向者の確保が難航している状況であり、各組織の業務の継続にも多大な影響を生じかねない点を懸念しています。これらの組織に参加されている、貴協会の加盟館のみなさまにおかれては、是非とも職員の事務局員あるいは、各組織の作業部会への推薦について、ご検討いただければありがたく存じます。

今後、我が国のオープンサイエンスを推進していくにあたっては、大学図書館こそが中心的な役割を果たしていかなければならないと考えております。弊所はみなさまと連携してよりよいサービスを目指して参りますので、今後共引き続きご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、総会・研究大会のご成功、私立大学図書館協会のますますのご発展、そして会員館のみなさま方のご健勝を祈念いたしまして、私からのご挨拶とさせていただきます。